令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【河合小・中・中等教育学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	全体的には、基礎的・基本的な知識・技能の定着が図れた。しかし、個人差が大きいことから個別に必要な支援を講じていく必要がある。「ドリルパーク」等、個別に蓄積されたデータを効果的に活かしていきたい。「学習指導要領の領域等」において各学年の課題、また、「設問別回答類型調査結果」により個人差が大きいことから個別に必要な支援を講じていく必要を把握することができた。「スクールタッチボード」等、個別に蓄積されたデータを効果的に活かしていきたい。そこで、該当学年の学習内容の定着はもちろん、系統性をもたせた指導方法(2年以上の教科担任制)の実施や、前年度の学習内容の定着の場(朝学習の時間・長期休暇・単元学習前に既習のふりかえり)を設定し、基本的な計算等の更なる反復・定着・習熟に取り組む。
思考・判断・表現	国語の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」について、各学年で共通の課題がみられた。そこで、思考・判断・表現する力(プレゼン力)の向上のために、①思考ツールを活用した授業の改善を行う。②伝え合いの機会を増やし、様々な視点からの考察の仕方(書き方)を学ぶ場を設定する。③なぜそうなったのかなど根拠をもって考えをまとめる力をつける授業を設定する⇒自分の考えを自分の言葉で意図をもって説明できる力を養う。④資料の読み取りや資料との関連付けを個人で行ったり、集団で行ったりする場(記述・発表)を設定し、全体的に考察の仕方や書き方の底上げを行う。

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	【学習上の課題】算数「数と計算」の領域において、正答率が低い。 【指導上の課題】児童が反復・習熟に取り組む時間の設定が不十分である。	⇒「ドリルパーク」や「スタディサプリ」を活用し、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組む(週2回の朝学習で実施)。その際、児童の学習履歴を確認し、個別に学習計画を立てる時間を設定する【月に1・2度の自習学習タイムで実施】。
思考・判断・表現	【学習上の課題】国語の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」について、各学年共通の課題がみられた 【指導上の課題】児童が自己表現する過程を教師が十分に評価できていない。	⇒活動の中に共同編集を位置付け、協働的な学びを通して考えたり、表現したりすることができるようにする【6年度さいたま市学習状況調査「学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができているか」の質問項目において、肯定的な回答の割合が90%以上】 授業中に児童が自分の学びを振り返る時間を設定し、次の学びに生かせるようにする(毎時間設定)。また、振り返りを活かし、授業時には、児童とともに必要感のある課題を設定したり、児童が主体的に課題を解決したりする場を設定する【毎授業で5～10分実施】。

⑤	評価(※)	調査結果 授業改善策の達成状況
知識・技能	B	朝学習以外(授業中・宿題等)でも「ドリルパーク」や「スタディサプリ」を積極的に活用することができた。また、家庭でも漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組む姿が見られた。自習学習タイムでは、学習計画(家庭学習)を立て、実践後に取り組みのふりかえりを行うことを徹底した。活動の終了後に、児童が自分たちの学びを振り返る時間を設けることで、次の活動につながる改善点を見つけることができた。それらを生かして、具体的にどの部分がうまくいったか、どの部分を改善すべきかを伝え合う場を設定した。
思考・判断・表現	B	Canvaやオウリンクプラスなどを活用し、リアルタイムで編集することができた。これにより、各自の意見やアイデアを即座に反映させることができ、協働的な作業が促進された。また、共同編集の過程で定期的にフィードバックを行う時間を設け、児童同士で互いの作業を確認し合い、改善点や新しいアイデアを提案することで、より良い成果物に仕上げることを目指す姿が見られた。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語の「言葉の特徴や使い方に関する事項」に課題がみられた。特に、「話し言葉と書き言葉との違い」「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」「文の中における主語と述語との関係をつかえる」への理解が不十分な児童が多く、文を構成する語句が増えると正答率がさらに低くなる傾向がみられた。算数の「数と計算」「データの活用」に課題がみられた。特に、「除数が小数である場合の除法の計算」や「速さの意味」についての理解が不十分な児童が多く、問題後半になるにつれて正答率が低くなる傾向がみられた。
思考・判断・表現	国語の「話すこと、聞くこと」に関する問題で、『目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる』に課題がみられた。昨年度の調査においても、同内容において正答率が低いことから、学校全体の課題といえる。算数の「変化と関係」の領域について課題が見られた。また、「立方体の体積の求め方」「言葉や数を用いて記述」「表(グラフ)から必要な数値の読み取り」への理解が不十分な児童が多い傾向がみられた。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語の「言葉の特徴や使い方に関する事項」において、全学年で課題がみられた。特に、①「前年度の漢字を『文の中で正しく使う』」②「文の中の主語と述語の関係について」の平均正答率が低いことから、学校全体の課題であるといえる。算数の全領域の平均回答率が全学年で低く、同領域の異集団比較において昨年よりも下回っていた。また、問題後半になるにつれて正答率が低くなる傾向がみられた。
思考・判断・表現	理科「エネルギー」を柱とする領域の平均正答率が低かった。同じ実験を行ったにもかかわらず他のグループと違う結果になった場合や、実験を複数回行ったときにばらつきが生じた場合についてその要因を見だし、実験の方法を検討し、必要に応じて改善する学習活動を増やしていきたい。

③	中間期報告	中間期見直し	
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	週2回の朝学習以外(授業中・宿題等)でも「ドリルパーク」や「スタディサプリ」を積極的に活用し、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組むことができた。月に1・2度の自習学習タイムでは、学習計画(家庭学習)を立てる時間を児童が設定するまでの一連の流れに取り組むことができた。	児童の学習履歴を確認しながら、個別にて学習計画(家庭学習)を立てる部分で不足していた。学習履歴等の情報を各自が十分に把握し、利活用しているような体制を整える。
思考・判断・表現	B	活動の中に共同編集を位置付け、協働的な学びを通して考えたり、表現したりすることができた。	振り返りを活かし、授業時には、児童とともに必要感のある課題を設定したり、児童が主体的に課題を解決したりする場面づくりが不十分であったため、学校全体で取り組めるよう研修等で情報交換・共有を行ったり、学校としての方法を検討していくなど実践を進めていく。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)